ＪＯＣジュニアオリンピックカップ

第４９回全日本中学生ホッケー選手権大会

【今大会レギュレーション(ＴＤ通達)】

1. 大会運営　本大会の運営は、(公社)日本ホッケー協会競技規則・競技運営規程ならびに第49回全日本

中学生ホッケー選手権大会実施要項による。

２．競技規則　 (公社)日本ホッケー協会２０１９年度６人制ホッケー競技規則による。

３．競技時間　試合時間は、前半１５分・後半１５分とし、前後半の間に５分間の休憩をおく。

４．時　　計　試合時間は、ジャッジ席で管理する。

５．競技方法（１）男女とも、３チーム総当たりの予選リーグを行い、上位各２チームが決勝トーナメント

に進出する。

（２）決勝トーナメントにおいて規定の時間内に勝敗を決しないときは、延長戦は行わず、試

合終了後ただちに「７」に定めるシュートアウト戦（以後「ＳＯ戦」とする）を行い、勝

敗を決する。（ＳＯ戦は試合終了４分後以内に実施する）

６．予選リーグの順位決定方法

（１）勝ち点の多いチームを上位とする。勝ち点は、勝利チームに３点、引き分けチームに

１点、敗戦チームに０点をそれぞれ与える。

（２）勝ち点が同点の場合は、下記の順序・方式により順位を決定する。

①リーグ戦における「得失点差」（「総得点数－総失点数」の差が多いチーム。）

②リーグ戦における「総得点数」の多いチーム。

③上記において、なお同点の場合、「７」に定めるＳＯ戦により順位を決定する。

なお、同位チームが３チームの場合のＳＯ戦は、同一チームが連勝したとき、その

チームを１位とする。

７．シュートアウト戦（ＳＯ戦）※詳細については2019年競技規則及び2019年競技運営規程参照

（１）両チームの監督は、レッドカードによる退場処分を受けている選手を除いた、エント

リー済みの選手の中から３名の選手と１名のゴールキーパーを指名する。

（２）両チームの主将によりトスを行い、先攻・後攻を決める。その後、両チーム３名ずつの選手により交互に攻防を１巡行い（計６回）、得点の多いチームを勝者とする。

（３）（２）の方法によって勝敗の決しない時は、「サドン・デス方式」、すなわち両チームが

同数の攻防を行った中で最初にリードしたチームを勝者とする方式により、再ＳＯ戦を行

う。この時は、ゴール数が同じであった場合、選手はプレー不可能な者を除き各チーム同

じ選手により先攻後攻を入れ替え、以降のＳＯ戦を行う。ただし、順序は変えても良い。

（４）SO戦においてPSになった場合は、当該SO実施選手に限らずベンチ入り選手のPS

実施が可能である。

８．試合の中断と追試合

天候などやむを得ない理由により試合が中断された場合は、下記により試合を再開する。

（１）追試合の場合は、中断した時の得点で残り時間のみ試合を行う。

（２）追試合の期日・競技場・審判員等は、これを変更することができる。

９．チームベンチ

１チームの編成は、監督１名、コーチ１名、手当てをする者２名、選手１２名以内とする。

※エントリーの際、同一校の男女チームの監督を兼ねることはできない。監督とコーチの兼任は可とするが、男女それぞれのチームでJHAのチームスタッフ登録を済ましていること。なお、監督については教員であること。また、手当者については成人であれば登録を免除している。チームベンチには、エントリーされた者以外は入ることができない。（但し、学校長、ベンチには入れない３年生等、ＴＤ の許可を受けた者はこの限りではない。このことは監督会議で確認する。）

10．フィールドへの立ち入り

試合中、選手にケガ等が起こった場合は、ベンチ内にいる手当てをする者及び監督・コー

チどちらか１名が、当該審判員の許可を得てフィールド内に入り、手当てを行うことができ

る。（ただし、その際にコーチングをすることは厳禁）

11．選手の交代

（１）各チームは、試合中随時どの選手でも交代できる。但し、ペナルティーコーナーが与え

られている間は、誰も交代できない。（負傷した守備側のゴールキーパーは除く）

（２）一時退場（イエローカード：２分以上）させられた選手に対する交代は、当該選手の退

場時間中は許可されない。

（３）選手の交代は、席前方のセンターライン付近で行われる。その際、時間の停止は行わな

い。但し、ゴールキーパー及び負傷者の交代については、審判員の管理下で行われる。

12．2019年度ルール確認　※H31.2ルール統一研修会確認事項

　　　　　 （１）サークル内にある防具により、おそらく入っていた得点が防がれた場合→ＰＳ

　　　　　 （２）サークル内における守備側のＦＨは、従来通り反則地点のサークルトップ(12m地点)

 に加え、サークル内のどの場所から再開することも可能となった。

　　　　　 （３）サークル４ｍ以内での攻撃側FHの場合、FHが即座に行われない場合はサークル内で

あっても４ｍ離れる。（常に４m離れようとする指導を奨励））

 （４）PC終了の条件から「サークル外に２回出る」の要件を削除。

（５）PC終了直後に速やかに行われる守備側FHでは、防具を外さずにパスを出すことが

許される。（ただし、パスの1プレーが許されるが、ドリブルすることは許されない。）

13．確認事項

① ユニフォームは必ず２着用意し、グラウンドへ持参すること。

② 選手はすね当てを必ず着用し、ストッキングを上まであげて履くこと。膝は隠さないこと。

③ キャプテンは、上腕及びストッキングのどちらかにキャプテンマークをつけること。

④ ゴールキーパーは、ケガの防止のため装具を完全に着用すること。アンダーパッドは必ず使用

すること。（チームの責任で遵守すること）

⑤ チームベンチは、［競技日程表］の左側のチームが赤印のついたベンチとする。

⑥ 試合開始１５分前にメンバーチェック及びリングパス、服装・装具の点検を実施するので、次試

合のチームはチームテント横で待機すること。なお、メンバーチェックは「登録証」を持参して行

う。スターティングリストは４５分前までにフィールドホッケーネットにて送信する。

⑦ ペナルティーコーナーで使用する保護具は試合開始前に必ずＴＯ に使用確認すること。

⑧ 応援者は、会場指示に従うこと。（保護者など応援者からの抗議等には一切応じない。監督は、保

護者による抗議等はできない旨を事前に説明しておくこと。）

⑨ 試合中、乱暴なプレーや審判員に対する誹謗等、スポーツマンらしくない行為は、厳に戒める。

なお、H28年度より、全チーム監督は「行動規範確認書」に署名し提出することとする。

⑩ 選手が負傷により出血したとき、頭・顔・心臓付近にボールが当たったときは審判員が負傷の状

況を確認し、退場を命じたときは直ちに退場すること。止血処理と傷の手当てが完了するまでは、

再出場できない。（２分以上の安静）

⑪ 棄権または試合中に退場・怪我等により、１チームの人数が３名以下になった場合は、その試合

は没収試合とする。

・予選リーグにおいて没収試合があった場合は、そのチームの試合をすべて没収し、残りのチーム

で順位を決定する。

・決勝トーナメントにおいて没収試合があった場合は、相手チームの不戦勝とする。

⑫「負傷・事故報告書」の提出を課せられた者は、医師による治療後、負傷事故報告書をＴＯまたは

ＴＤに提出する。本人への健康確認のうえ、次試合の出場を認める。試合が無い場合は、負傷事故

報告書を大会事務局に郵送すること。

⑬ 全日本中学生ホッケー選手権大会において、抗議制度はない。

⑭ 試合終了後、両チームの監督は、ジャッジ席で署名すること。

⑮ その他、本規定に定めのない事項または、不測の事態が発生した場合は、ＴＤの指示に従うこと。

⑯ 決勝トーナメントの組み合わせについては、予選リーグ終了後に抽選会を実施する。

その際、決勝トーナメントの参加チームは監督・コーチまたはそれに代わる者(成人)が参加するこ

ととする。（正当な事情により、参加できない場合、大会実行委員会による代理抽選を行う）